

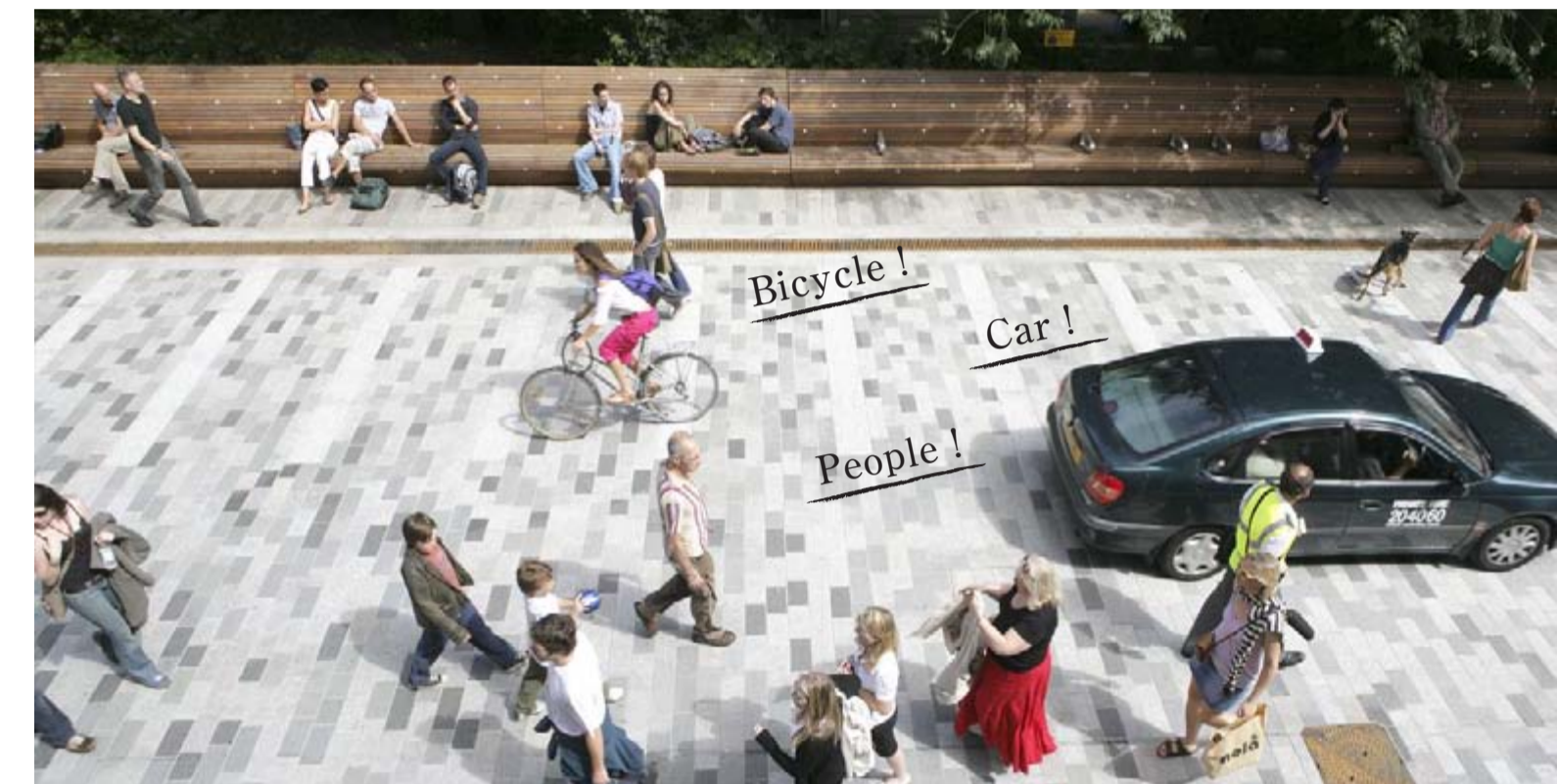
新陳代謝する街路

0. はじめに

大井町駅前中央通り、私が初めて訪れたときに真っ先に目にしたのは、通り沿いに駐車された数多くの車であった。駅とまちをつなぎ、便利で安全で「歩きたくなるまちづくり」を実現するにはどうしたらいいか。私は、自動車交通のための道から、歩いて楽しい道、そして集い憩える道への転換が必要だと考えた。子供からお年寄りまでのあらゆる人々が安心してゆったりと憩える道は、その周辺の街の賑わいをもちたらし大井町の活性化にも大きく貢献すると考える。そして、ゆったりと憩える道は、これまでの歩者分離の原則で作られてきた固定の道ではなく、その時代の人々の変化を許容する可変な道、すなわち「新陳代謝する街路」ではないだろうか。

1. 歩行者優先のゆったりと憩える道

その時代の人々の変化を許容し可変するゆったりと憩える道、「新陳代謝する街路」の実現のために、欧米において事例が増えつつある「シェアド・スペース」を導入する。「シェアド・スペース」とは、信号・標識の多くを撤去し、歩道や自転車道、車道などの区別をやめ、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩車共存の空間を再構築するというものである。その結果、自然と行動に責任を持つため、車の走行速度が低下し、重大事故の減少効果があると考えられ、さらに、歩行者優先の道であることから歩いて楽しい道、また街路上にテーブルやベンチを配置することで集い憩える道を実現することができる。街路上の空間は可変なので、その時代の人々の変化を許容することができる。



欧米において「シェアド・スペース」が適応された街路

2. 大井町らしい賑わいが生まれる広場のような道

「シェアド・スペース」が実現された道は、いろいろな使い方ができる。朝はランニング、平日のお昼にはみんなでご飯を食べる、夕方には外で会議、休日はイベントのスペースと使用する、また、災害時にはみんなが集まれる場所となる。大井町に住む人、訪れる人が自由にこの道を使いこなすことで、大井町らしい賑わいが生まれる。



3. 段階的に進めるまちづくり

Phase 1

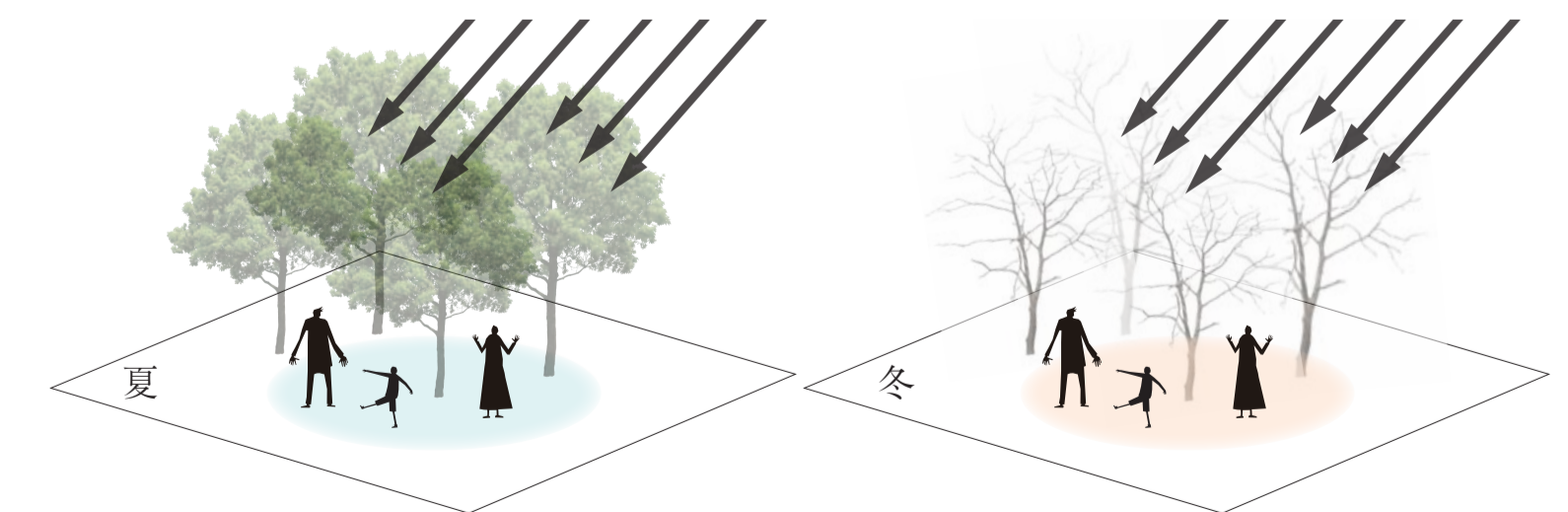
駅前ロータリーの空間再構築し、駅とまちをつなぐ場をつくる。さらに、現状4車線+副道の車道空間を2車線へと再配分することによって歩道空間を拡幅する。

Phase 2

信号・標識を撤去し、歩道や自転車道、車道などの区別をやめ、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩車共存のゆったりと憩える空間を再構築する。

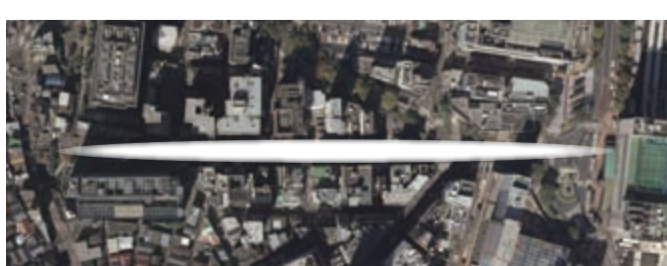
4. 憩える場づくり

街路樹には、落葉樹を用いて日照をコントロールすることで、街路上に憩える場をつくる。夏には、茂った葉が日差しを遮るとともに、樹冠が陰を落とし、直射日光を遮ることで建物や地面が蓄熱するのを防ぐ。木陰の地面の温度は、気温よりも5℃以上も低い。冬には、落葉した枝の間から日差しが刺す。落葉した樹木をすり抜けた日差しが日溜まりを作るとともに、暖められた地面の輻射熱によって体感温度が高くなる。



5. 祭りの空間

その場所固有の歩いて楽しい道・集い憩える道の空間を考えたとき、もともとその場所にあった人とのつながり、つまり昔からあるその場所固有の祭りの空間が適しているのではいか。大井町には、50年以上続いている大井どんたく祭りがあり、大井町駅から伸びる軸線上で開催されている。この軸線上こそ歩いて楽しい道・集い憩える道をつくるべきではないかと考えた。



大井どんたく祭りの軸線



～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提案要旨説明書

■作品タイトル

新陳代謝する街路

■提案要旨

はじめに

大井町駅前中央通り、私が初めて訪れたときに真っ先に目にしたのは、通り沿いに駐車された数多くの車であった。駅とまちをつなぎ、便利で安全で「歩きたくなるまちづくり」を実現するにはどうしたらいいか。私は、自動車交通のための道から、歩いて楽しい道、そして集い憩える道への転換が必要だと考えた。子供からお年寄りまでのあらゆる人々が安心してゆったりと憩える道は、その周辺の街の賑わいをもたらす大井町の活性化にも大きく貢献すると考える。そして、ゆったりと憩える道は、これまでの歩者分離の原則で作られてきた固定の道ではなく、その時代の人々の変化を許容する可変な道、すなわち「新陳代謝する街路」ではないだろうか。

歩行者優先のゆったりと憩える道

その時代の人々の変化を許容し可変するゆったりと憩える道、「新陳代謝する街路」の実現のために、欧米において事例が増えつつある「シェアド・スペース」を導入する。「シェアド・スペース」とは、信号・標識の多くを撤去し、歩道や自転車道、車道などの区別をやめ、最低限の交通ルールと人々のコミュニケーションによって歩車共存の空間を再構築するというものである。その結果、自然と行動に責任を持つため、車の走行速度が低下し、重大事故の減少効果があると考えられ、さらに、歩行者優先の道であることから歩いて楽しい道、また街路上にテーブルやベンチを配置することで集い憩える道を実現することができる。街路上の空間は可変なので、その時代の人々の変化を許容することができる。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。